

明倫館だより

第48号
平成19年9月1日発行
発行人 井上晴雄
財団法人 南豫奨学会
南豫明倫館
〒184-8586
小金井市中町4-18-26
TEL 042-383-9835(代)

ミの音の
出ぬ喉にくし
鳳仙花
岡本光平
秋風や
卵買ひ足す
きのふけふ
雄介
明倫館俳句会

平成19年度主要行事報告・予定 (平成19年9月1日現在)

平成19年

- 4月 1日 平成19年度入寮生13名入寮
- 8日 新入寮生懇親会
- 11日 寮室、風呂など補修工事実施
- 22日 19年度新入寮生歓迎会、常務理事会
- 5月14日 客室たたみ替実施
- 26日 鈴木孝和君(早稲田大学社会科学部1年)部活中に足首骨折
- 28日 監査役会開催・植木剪定開始
- 6月 2日 平成19年度第1回理事会・評議員会開催
- 5日 宇和島市長来館
- 29日 東京都へ予算・決算・事業計画書提出
- 7月 6日 平成19年度第2回常務理事会開催
- 17日 館内塗装工事開始
- 27日 19年度消防検査実施
- 8月 6日 夏休み開始
- 18日 夏休み終了
- 30日 館内塗装工事終了
- 9月14日 平成19年度臨時常務理事会開催
- 10月 5日 松山OB会幹部会(於松山市)
平成20年度入寮説明会
(於宇和島自動車会館)
- 6日 保護者懇親会(於宇和島自動車会館)
奨学生面接(於宇和島自動車会館)
高校長懇親会(於嵯峨野)
- 11月23日 寮祭、第3回常務理事会
- 12月 9日 松山入寮説明会
10日~14日 南予4高校校内説明会
- 平成20年
- 1月19日 第2回定例理事会
(於ホテルニューオータニ)
- 2月17日 第4回常務理事会、
平成19年度卒業生歓送会
- 3月 7日 第5回常務理事会・書類選考
- 14日 平成20年度入寮生面接選考会



期待を担い 俊英一三名が入寮

平成19年度 南豫明倫館入寮生
(氏名・大学学部名 出身地) 一 自己紹介、
二 将来の抱負

一 泉 高士(専修大経営学部、八幡浜市)
趣味はバスケットです。部活でもずっとやってきました。大学でも続けようと思つていきます。よろしくお願ひします。
二 夢は税理士になることです。大学で学ぶことは直接自分の将来に関わってくるので、しっかりやっていきたいです。

一 松本 慎吾(専修大商学部、西予市)
宇和島東高校出身です。部活はバスケットをしていました。スポーツは何でも好きです。サッカーやNBA、プロレス観戦が大好きです。
二 将来の抱負としては、大学において勉学にはげみ社会に貢献できる人物になりたいです。そのため日々精進していきたいです。

一 吉田 充慶(国学院大・神道文化学部、西予市)
大学ではサッカーのサークルに入ろうと考えています。単位を落とさず、頑張りたいです。よろしくお願ひします。
二 卒業後は都内のお社に奉職したいと思つています。

一 橋本 将(上智大・文学部、宇和島市)
大学では、ドイツ文学を専攻するので、しっかりと勉強してドイツ語を使いこなせるようになります。よろしくお願ひします。
二 マスコミ関係の仕事に就きたいと考えています。いろいろなことに挑戦して、自分の言葉で勝負できる人になりたいです。

一 田中 吉典(中央大・商学部、宇和島市)
中学生のときから陸上部で走ってばかりでした。この調子で将来に向かって走ってきたいと思ひます。
二 将来は銀行関係の仕事をしたと考えています。そのためしっかりと勉強をしていきたいです。

一 織田 龍郎(明治大・文学部、宇和島市)
僕は、小学一年から体操をやってきました。大学では、インカレ出場を目指して練習を頑張っています。
二 今のところ、社会科の教員になることを希望しています。大学でそれ以上にやりたいことが見つけれたらいいなと思つています。

一 森 裕一(明治大・理工学部、宇和島市)
大学ではサッカーサークルに入ろうと考えています。あと、好きな食べ物にはスパゲッティです。よろしくお願ひします。
二 今のところ自動車関係の仕事に就きたいと考えています。単位を落とさないようにがんばりたいと思ひます。

一 辻 清人(東京農大・応用生物科学部、愛南町)
南宇和高校出身の辻清人です。高校のときは陸上部に入っていました。英語が好きです。
二 僕の実家は醤油屋なので、そういつた面では最高の大学に行けたと思うのでこの大学で学んだことを活かして、醤油屋を継ぎたい。

一 久世 聡(東京農工大・農学部、松山市)
自転車に乗って遠出するのが好きです。特にやる事が無い場合は部屋にこもりがちなので、もつと外に出かけて行きたいです。
二 まだ特別な夢は決まっていまませんが、できるだけ環境・動物などにたずさわることができ、職業を探したいと思います。

一 緒賀 健太郎(慶応大・総合政策学部、松山市)
こんにちは！KOボーイです。偶然にも名前のインシヤルもKentaro Ogaです。KO(Knock Out)しちゃいます。
二 将来は、ライフサイエンス・経済宇宙物理芸術関係等の分野で研究したり働きたいと考えています。

一 鈴木 孝和(早稲田大・社会科学部、松山市)
特技はソフトテニスです。大学でも部活を続け、全国制覇目指して頑張っています。よろしくお願ひします。

一 梅本 慎吾(明治大・理工学部、松山市)
小学校の時から陸上をずっとやっていたので走るのが好きです。大学ではサークルと勉強に頑張りたいです。
二 明大の新しい学科で最先端の技術を学び、臨床工学技師になり、最新の医療機器を發明し多くの人を助けたいと思つています。

一 金子 祐介(帝京大・法学部、浦安市)
趣味はTVゲームや剣道です。剣道は高校から始め、大学でも続けようと考えています。よろしくお願ひします。
二 将来は子どもの夢である警察官になりたいと思つています。

在寮生 大学・出身校別一覧

平成19年度	4月1日現在																											
在籍大学	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	計	
出身高校	東京大	東京芸大	東工大	電通大	一橋大	東京外語大	専修大	成蹊大	帝京大	青山学院大	東京工科大	東京経済大	東京理科大	東京電機大	上智大	明治大	日本文学大	早稲田大	慶応大	国士館大	中央大	拓殖大	東京農大	大正大	計			
松山						1																					1	
山予														1													1	
八幡浜	1						2															2	1				6	
宇和島東		1	2	1			6	1			2	1	1	1	1	1	1										19	
宇和島南								1			2				4	1												9
北宇和												1	1							1								1
南宇和																								1	1			2
済美								1											1								1	
愛光	1			1																1	1						5	
奈良高専			1																									1
新田																1												1
豊島学園										1																		1
計	2	0	1	1	3	1	1	9	1	2	1	2	1	2	1	1	6	1	5	1	2	1	5	1	1	1	53	



▲第4回 富士登山

財団法人南豫奨学会

「奨学金支援会」だより

御礼並びにさらなる御支援を！

財団法人南豫奨学会
奨学金支援会会長 伊達 宗禮

平成一九年度、奨学金支援会の募金状況は左記のとおり。一九年七月三十一日現在で二四三万五千円に達しております。各界皆様方の厚い御支援に感謝申し上げます。引き続きいっそうの御芳志を賜わりたく、よろしくお願い申し上げます。郵便振込番号 〇一五〇一―二九六五―三

銀行口座 伊予銀行新宿支店普通預金口座
一六〇六三九

名義 『財団法人南予奨学会奨学金支援会』
委員長 松本 三郎

平成19年度支援会申込者数並びに入金状況

(平成19年7月31日現在)

	申込者数(人)	募金額(円)
理事・監事他	12	370,000
評議員	36	720,000
OB	31	770,000
現父兄	10	115,000
一般	24	320,000
法人	2	90,000
市町村	1	50,000
合計	116	2,435,000

※一般には元父兄含まれます。

奨学金支援会第一回受給生

これまでの大学生活を振り返って

中山 慶太

(東京理科大学理学部(数学専攻)・三年)

僕が明倫館に入学して早二年半が経ちました。寮での生活にも慣れ、毎日充実した生活を送っています。大学の勉強においては、三年生になり、基礎的な学習から専門的な学習に変わっています。また、バイトは二つのものを掛け持ち

で行い、休日は寮のサッカークラブで試合に出たり、サロンで筋トレに励んだりしています。

僕は元々、地元大学の教育学部に入り、教員を目指そうと思っていました。田舎育ちなので人が多い場所は苦手だし、愛媛が大好きだからです。しかし、親にはできるだけ東京の大学に行って日本の中心がどんなものかを見て来いと言われました。確かにあんなものを見て来いと言っていたら、地元で就職し、地元で家庭を築き、地元で人生を送っていたことでしょう。

今考えると愛媛にいたら今以上に小さい人間になっていたと思います。地方の大学にはよほど有名な大学じゃない限り、その地域の学生しか集まってきません。しかし東京の大学はいろんな地域からやって来た人達が集まっています。僕の友達にも北は北海道から南は沖縄まで、そしてアメリカからうちの大学で勉強するために来ている人もいます。みんなそれぞれ違った方言や習慣があり、話すだけでとても勉強になることがあります。

ふと「どこかに行きたい」「何かが欲しい」「何が食べたい」と思った時に電車やバスを使えば、周りに何でもそろっているのが短時間で自分の要望に答えることができます。ただその反面誘惑が多すぎて金欠になってしまうということもあります。僕は一時期競馬にはまっていたし、月に何万も使うことがありました。今は予想だけをしてお金をかけることはしていませんが、これもよい人生の経験です。自分で働き始めてお金に余裕ができれば、少しずつしたいと思っています。

これからは今までの学生生活について振り返ります。学校に通って一番驚いたのは電車内の客の多さです。一年の時は、授業が月曜日から土曜日の全て一限から始まったので、毎日通勤ラッシュの時間帯と重なっていました。高校の時もバス通学だったので毎朝客でいっぱいになったバスに乗っていました。でも東京の電車はそんなものじゃありません。特にひどい時は、ぎゅうぎゅうになりすぎて人に挟まれて体が浮いてしまう時もあります。また、痴漢に間違えられたら嫌なので、手の位置なども考えなければいけません。このようなことを考えるのは僕だけかもしれませんが、朝から周りに気を遣わなければいけなかったのかかりしんどかったです。三年生の今は授業数も少なくなりましたが、客がいない時間帯に電車に乗ることができるのでかなり楽になっています。もうあのころの生活には戻りたくありません。確実に一つ一つになります。



▲寮内サッカークラブ

僕は大学のサークルにも所属していませんが、完璧に幽霊部員です。それとは別に寮で作ったサッカーサークルで活動しています。中学高校の六年間ソフトテニスをやってきたので僕はサッカーに関して素人です。しかし、高校一年の時に開催された日韓ワールドカップでの一流選手のプレーを見て、サッカーの虜になりました。サッカーをするために、昼飯を早く済ませて、昼休みに練習するほどです。全くうまくはありませんが、自称エースとして多分チームを引っ張っています。一年の時は人があまり集まらず、五人制や七人制のフットサルの大会に出場しました。僕はチームの足を引っ張るプレーばかりをしていましたが、周りの人の活躍で優勝や準優勝という成績を残しました。二年の時は、一年生にたくさんのサッカー経験者が入ったこともあり、サッカーの大会や練習試合を多く行うことができました。大会は四位に終わり、エースの座は廣瀬君に奪われてしまいました。交代人数が少ない中でこの成績は立派だったと思います。今年、キャプテンの就職活動があったので、試合があまり組めず、4回の練習試合しかしていませんが、後期は大会に出たいです。

僕は、南豫明倫館の奨学生第一号です。母子家庭の自分にとって、金銭的にとても助かっています。しかし、寮からお金をもらっている身として、他の寮生の模範となるような寮生でなければいけません。まだまだ足りない部分があります。これからはそういった所を見直して、全ての寮生の模範となる行動をとりたいと思います。

僕は、七月まで近くのスーパーのバイトと早朝のスーパーへの品入れのバイトと寮の風呂掃除のバイトをしていました。内訳は、スーパーが九万、品入れが四万、風呂掃除が一万程です。仕

送りは一切もらっていません。母親に迷惑をかけるわけにはいかないし、兄も仕送りで生活していたからです。しかし今のペースで働くと、親の扶養から外れてしまうようなので、近くのスーパーのバイトは辞めました。それだけに寮の奨学金はとてもありがたいです。

僕は、大学卒業後は就職するつもりなので寮生活は残り一年半ほどです。寮での生活は一人暮らしと違って集団生活です。自分だけのことを考えているのは、ここでの生活は成り立ちません。しかし、この経験が社会に出た時に役立つことだと思います。これからの生活は学業、スポーツを頑張るだけでなく、寮生活を楽しんでいきたいです。

第四回富士登山を経験して

辻 清人

(東京農業大学 応用生物科学部二年)

この富士登山には、夏休みがいいネタになると思い本当に軽いノリで参加することにしました。私が参加するためには名前を書いたとき、参加者は五人のみ。そのうち一年生は二人だけでした。一年生の二人は初めての登山だったので何を準備すればいいのかかなり戸惑いましたが、とりあえず、生きていくためには食料と水分があれば大丈夫だろうと考え、食べ物もしっかりと持って行きました。

そしてついに出発のときになりました。赤松さんからリポビタンDと晩飯の差し入れをいただき、いよいよ出発です。先輩方は何度か登ったこともあり、秋の準備や、登山用のブーツなどが準備万全でした。その中でも特に驚かされたのが荷物の少なさでした。やはり、山登りをすることにあたって荷物は大きな負担になるということを知っていたのだらうと思います。その辺はさすがだと感じました。富士山に立ち向かう五人の若人はまず、駅に向かいました。駅に向かう間に道をすれ違ふ人にじろじろ見られました。長い棒を持ち、大きなリュックサックを背負っている人がいれば誰もが気になります。しかし、それだけのせいではなかったように思います。富士山行きのバス停には多くの人がいました。富士山行きのバス停には多くの人が目立ちました。おそらく日本人と同じぐらいの人数がいたのではないのでしょうか。

夜の七時に富士山の五合目に到着。酸素が薄い、寒い、トイレが有料、などに少し驚いたも



▲富士山頂での御来光

の、登山用の服に着替えて晩御飯をこちそうになり、リポビタンDを飲んでみんなで気合を入れていざ出発。六合目に行く際に下りの道から始まり、みんなが混乱してしまいました。が無事に六合目まで着きました。この時点では五人とも絶好調でこの調子で進んで行けば頂上なんてすぐに着いてしまうのではないかと余裕の発言。休憩の時間も短めで出発しました。しかし、上へ行くにつれて「山をなめるな」という言葉を反芻していました。登っている途中で火花が見えたのですが、その火花は自分たちの下に見えるのでとても不思議な気分でした。そして、頂上に着いたときには、もう力が抜けてへとへとになっていました。あそこで食べた味噌ラーメンは(麺はレトルトであろう)絶品でした。頂上は、とても寒かったのですが、朝日が昇ると、ポカポカと暖かくなり、あの雲がオレンジ色になっていくのを眺めていると、疲れを忘れてしまいました。隊員のだれかがもらった、「太陽は最高の暖房やね」という言葉には強く共感できました。この感動の後には、やはり下山という試練が待ち構えていました。実際、登りよりもきつかったです。

いよいよ下り終え、寮に着いたときには、本当にほっとした。そして爆睡。このときに一番の幸せを感じたように思いました。すごくいい経験ができて良かったです。

編集後記

▼築後二十年を経過しましたので館内の風呂・トイレ・塗装など内装工事が完了しました。
▼戦後初代の大和田館長の妹にあたる岡添みどりさんが逝去されその息子さん(岡添弘さん(明倫館OB)から支援会基金として、三十万円の寄贈を受けました。感謝致します。
▼「ふるさと」鳴鶴フォーラムが開催され、木下博民さんから、二筆をいただきました。後日皆様にお送りします。